



# 菜の花だより

2017年 臨時号

平成29年11月1日発行

「ベッドから下りて便所行きたいんだよなー・・・」

— 入院中トイレに行くことを許されなかったおじいさんの願い —

法人本部統括部長 大塚 恵利子

5年前、私の父は急性期病院のベッドの上で足元の柵を見ながらそう呟きました。

私の父は若いころから重症筋無力症という神経難病を患っていましたが、足の筋力低下を通院、服薬治療のみで何とか維持していました。ところが定期受診で肺に陰影が見られ、1ヶ月入院治療した後しばらくして急激に悪化、次の受診で誤嚥性肺炎との診断でそのまま入院、鼻にチューブが入り、飲食を禁じられました。この時点で87歳、十分生きたし以前から「自分の家で死にたい」と言っていたので、もし意識が戻ったら自宅で看取ろうと思っていましたが、そう簡単には行きませんでした。

2日もすると熱は下がり元気になりましたが、鼻のチューブを嫌がり外そうとする拘束が始まりました。この時点で家族は病院側に治療を止めて自宅で看取ることを依頼しましたが、チューブを外すことさえ叶わず、長くチューブを入れておけないので胃ろうを選択するしかない状況となりました。この頃はまだ判断能力は正常だったのとADLは驚くほど自立していたので、「歩けるのになぜトイレに行かせてくれないのか」「なぜオムツなんかさせられているのか」と悔しそうに毎晩病室を訪れる私に聞いていました。病室には4人の高齢男性患者さんが入院しておられましたが、どの病室でも「看護師さん。トイレ連れて行ってください。」と叫ぶ声が聞こえていました。皆オムツを付けられ、ナースコールで呼ばれた看護師も一様に「オムツにしちゃってね」と言って忙しそうに立ち去って行くのでした。ちなみにその時、車椅子トイレの電球は切れ、ドアも故障していて開きませんでした。高齢の男性利用者にとって、オムツに排泄することはとてつもない不名誉なことでしょう。父もなるべく排便をがまんするので、下痢と便秘を繰り返すようになりました。

ある日、父はベッドの上で足元の柵を見つめて、「あそこから下りて便所行きたいんだよなー・・・」と悲しそうにつぶやきました。私は父の心からの唯一の願いを聞き、憤りました。

一もし家だったら、もし介護老人保健施設だったら、この願いを聞いてあげられたのに！



人として最低限の自尊心を守ってあげられない医療やケアが、治療という大義名分の上に行われていました。たぶん父だけでなく他の方にも同様に。

私はその場で主治医に会い、「拘束を止めて下さい。介護職の私が面会の際にトイレに連れて行くことを許可してください。ベッドから落ちて死のうが骨折しうるが構わないが、これでは人間が壊れる前に人格が壊れてしまいます。」と交渉し、その翌日から拘束が終わり、トイレでの排泄が許可されました。車椅子トイレのドアは直り、電気も点くようになっていました。

その後、紹余曲折があり、主治医より余命3ヶ月と告げられた時には満面の笑顔で「先生、看取りってことで家に連れて帰っていいですよね！」と退院許可をもらいました。この頃の病棟では父以外の方でも看護師にトイレに連れて行ってもらっている方がチラホラ見られるようになっていました。その後、医療の制度も変わり、今では病院も退院支援に力を注いでいます。

家に帰ってからの父は、訪問診療、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションで在宅を支えて頂きながら3年と10か月、全く自立した生活を過ごしました。亡くなる1週間前の意識を失う寸前まで、念願だったトイレに自分の足で歩いて行って排泄をし、手でつかんで一度に3切れのお餅を食べ、孫、ひ孫に囲まれ、これ以上の幸せがない91歳の生涯を終えました。

介護老人保健施設は基本的には拘束をせず、人が人らしく、尊厳を保ち、ご自宅へ帰ることを目指して支援する施設です。ここで働く皆さんは利用者お一人お一人の声に耳を傾け、可能な限りご希望に添えるよう日々努力していることを私は知っています。

介護老人保健施設だから、医療と生活の場としての役割を両方兼ね備えているから、叶えて差し上げられる思いがあります。

私も介護保険サービスに携わる一員として、やむを得ず療養をしなければならなくなつた方の、生きてきた人生の尊厳を重んじ、傍らに寄り添うようなケアを心がけたいと思っています。



### 【編集後記】

自分の大切な人をどこでどのように看取るのか。本人と家族の思い、理想と現実。難しい局面がいくつもある中で、本人や家族にはより良い選択をして欲しい。そのような想いを込めて、当法人の職員のエピソードを紹介させていただきました。編集をしながら、自分が最期を迎える時はどうしたいかを考えていると、写真のおじいさんの穏やかで幸せに満ちた表情が「うらやましいだろ」と語りかけてくるようでした(\*^\_^\*)

医療法人社団幹人会 IT・広報委員会

介護ロボット絶賛活躍中！  
僕たちに興味がある人は  
気軽に見学しに来てネ♪



レクはお任せ！  
コミュニケーション型  
ロボット パルロ



介護職の腰を守るぜ！  
装着型ロボット HAL



癒しの パロ



## 菜の花敬老秋祭り

今年も利用者さま、ご家族さま、地域の方々と、多くの方にご参加いただき、大盛況で終えることができました。これからも皆様に喜んでいただける施設行事を開催して参ります。  
今後とも菜の花・ユニット菜の花をよろしくお願い致します。

